

『Sport Japan』01-02月号 (No.71) から学ぶ

林 但

平素より協議会の活動にご理解をいただきありがとうございます。

表記、公益社団法人 日本スポーツ協会機関誌で2ヶ月に1回発行されています。24年01-02月号は「まさか？ そのとき指導が変わった 「きづき」をもたらした、その瞬間」という社会をめざして」の特集号です。

私の視点にて気づいたこと・参考になる点を2点記載します。



1 PAART 3 「グループディスカッション」は なぜ、あれほど気づきをもたらすのか 高知大学教育部教授 矢野宏光氏

私が受講した一昨年度の全国スポーツ推進委員連合会リーダー養成研修会でも積極的に活用される「**グループディスカッション (GD)**」。初対面でもひとつのテーマに意見を交わすと、いろいろなものが頭を駆け巡り始める。いったいどうなっているのか。そのポイントを知ることは、自らの気づきにつながり、指導の場でも新しい導きが、きっと見えてくると思います。

振り返ってみると会社勤務時代35年以上前、初めてラインの管理者となり担当した当時、働いている人は上司の顔を見て言われたことを淡々とこなしていた。職場ははきがない、直属の部下はみんな年上の人ばかり、担当して2週間たったころこの職場を何とかしたいと考えて話をした。「月末ラインを2時間止め私から各職場の問題・課題を提示します。2時間止めても生産に支障がないように取り組むようにお願いします」と提案した。

月末、職場ごとにグループを作り提示された問題・課題を討議していただいた。初めは口数も少なかったが、次第に熱気を帯活発に。グループごとにみんなの前で発表して頂いた。私は出された提案・意見をまとめ、自分でできるものは自分で、上司やスタッフに相談や知恵を借りる、お金が必要な場合は交渉にも出向き出された中から重要なもの・緊急性の高いものから実施していった。翌月も同じように毎月続け1年たったころには見違えるような職場になり、他の部門も同じようなことをする所が出てきていた。**当然意見を出した人は自分の意見が採用され積極的に取り組む、他の人もそうか自分の職場だったらこうすればよい、こんな方法もあるなどみんなが自分の事として取り組む**ようになったことが大きいと感じました。

5月に行う新任スポーツ推進委員研修会でも講義と併用しながら**GD**も取り入れて、私たちスポーツ推進委員の役割や取り組まなければならない問題・課題について気づいていただけるように進めていこうと考えています。



R5年5月号「みんなのスポーツ」表紙 ⇒
全国リーダー養成講習会 GDの場面 (右前が林)

2 INTERVIEW フェアプレーとは「しみ込んでいくもの」、大切なのはスポーツの価値を伝え続けること 「わたしのフェアプレー」連載第65回 慶應義塾高等学校 監督 森林貴彦氏

失敗したとき、負けたときこそ……の事例で、ご自身も同校野球部出身、選手時代に「自分たちで2塁けん制のサインを決めなさい」と言われて関わるポジション全員で「こんなサインはどうか、こんな動きはどうか」3時間くらい話しあいました。この、自分たちで決めるという作

